
子どもの居場所づくりシンポジウム

日時：令和2年11月15日（日）午前10時00分～

会場：ひと・まち交流館 京都 大会議室

○開会挨拶

○子どもの居場所づくり「支援の輪」サポート事業について

- ・事業説明
- ・コロナ禍における実態調査報告

○実践報告「ウィズコロナ社会における今を考える

～こんなときだからこそ、私たちは活動に取り組みました～

コーディネーター：村井 琢哉さん（特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろば 理事長）

パネリスト：宇野 明香さん（ハピネス子ども食堂）

小林 敬子さん（ハイ・どうぞ子ども食堂）

竹田 明子さん（公益財団法人京都市ユースサービス協会）

グラフィック：三宅 正太さん（特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろば）

○質疑応答

○閉会挨拶



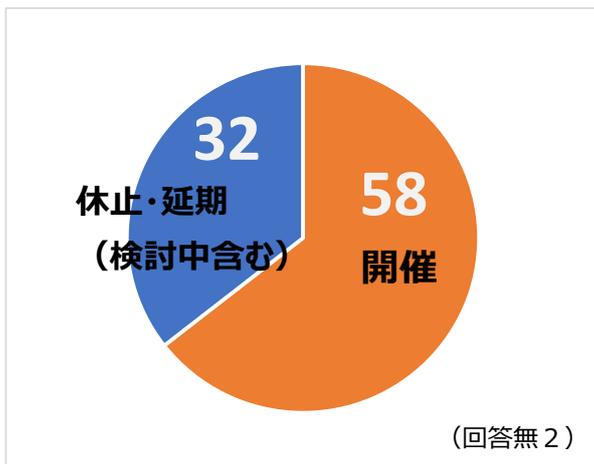
子どもの居場所づくり実施団体へのコロナ禍による取組アンケート調査と結果について (報告)

- (1) 調査対象 子どもの居場所（子ども食堂および学習支援）に取り組む京都市内96団体
- (2) 調査期間 令和2年9月～令和2年10月（〆切10月31日）
- (3) 調査方法 各区社協および市社協職員がによる調査票を用いた聴き取り（訪問、電話、メール、郵送）
回収数 92団体（令和2年10月31日現在） /回収率 95.8%

(4) 調査結果

Q1 現在の活動状況について (複数回答あり)

・「通常とおり開催」「通常とは異なった開催」と回答したのは58団体(63%)。6割の団体が何らかの形で開催を継続・再開している。

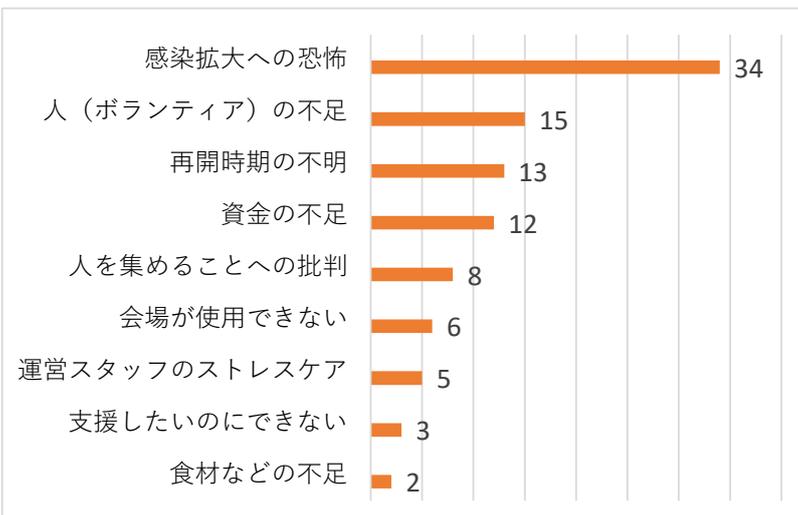


<「開催」の具体的な声>

- ・お弁当の配布に変えた。
- ・人数を半分に減らした。
- ・事前申込制に変え、誰が来るか分かるようにした。ネットでの申込みの仕組みを取り入れて様子を見ている。
- ・席の間にパーテーションを設置した。子どもたちが楽しめるよう絵本のキャラクターをボランティアに描いてもらった。
- ・参加者が対面しないようレイアウトを変えた。来てくれるのは嬉しいがおしゃべりがなく、すこし寂しい気もする。
- ・屋内だけでなく、キャンプ用テーブルセットで屋外スペースを作った。
- ・運営スタッフ・ボランティアも減らした。そのため、メニューも時間がかからないものに変えた(バリエーションは減った)。

Q2 子ども食堂(子どもの居場所づくり)に関する困りごと (複数回答あり)

・「感染拡大への恐怖」へ回答した団体が一番多い(36.9%)

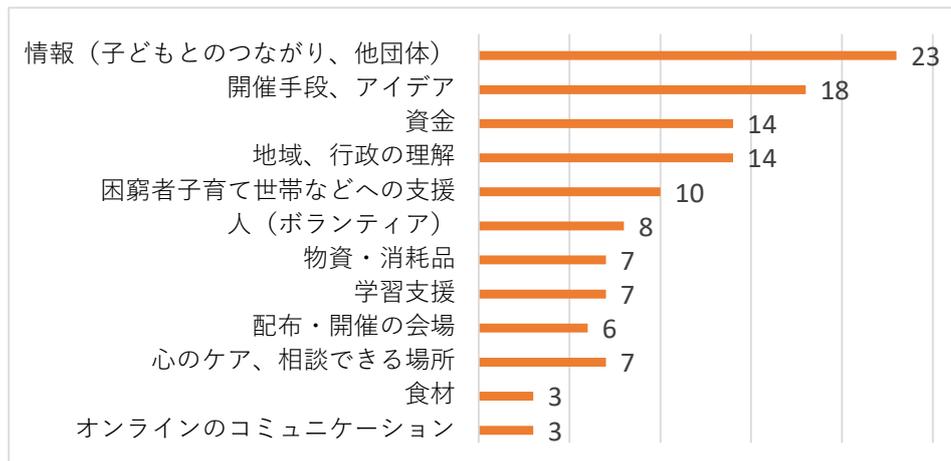


<自由記述欄の主な声>

- ・職場でボランティア活動をしなやかに言われるスタッフが居る。
- ・地域の事業再開と時期をあわせて再開したい。
- ・心の貧困が見える(子どもの孤立、人間関係が希薄)。
- ・子どもとのコミュニケーションがとれない。
- ・学生ボランティアは卒業等で入れ替わり、定着できない人がいる。
- ・会場が狭い。
- ・会場が高齢者施設のため使用場所が限定される。
- ・利用施設がコロナの影響で使用できない。

Q3 いま、必要な支援とはどのようなことがあるか（複数回答あり）

・「情報（子どもとのつながり、他団体）」、「開催手段、アイデア」を求める団体は5割近く（44.5%）



Q4 その他、ご意見、要望など（自由記述・抜粋）

①コロナ禍への対応方法について

- ・1月からどうすべきか悩んでおり、他の所の話が聞きたい。コロナ禍における新たな位置づけをどうしたらいいか。
- ・感染予防の対策をどこまですればよいか、再開してよいかの判断がわからず、始める一歩が踏み出しにくい。
- ・コロナ禍でどのようにすれば今までのつながりを途切れさせないでいられるか悩む。
- ・大学の団体なので、現状、大学授業がオンラインのため対面での実施は不可能であると考えており、大学もそのような指針である。
- ・今だからこそ、子どもの居場所、学習支援の必要性を感じる。しかしコロナ的环境下においてコミュニケーションが取りにくく、今後の活動の方法などに不安を感じている。

②子ども・家庭の見守り、支援等について

- ・人数を集めるだけでなく、必要な人に必要な支援が届くにはどうすれば良いか。
- ・民生児童委員協議会、少年補導に声掛けをして地域の中で子どもを見守りサポートする輪をつくりたいと話している。PTAなど若い世代を巻き込むことが理想。
- ・地域のつながりの場になることが目標。いろいろな方が参加することでつながっていけるような場にしたい。
- ・困窮者子育て世帯、おられるはずだが、開催情報が届いているかどうか不明。我々の実績も少なく、学校（小中高）の関与があったら…。

③運営について（資金、会場、食材、担い手など）

- ・オンラインでの企画を少しずつ考えてはいるが、開催方法などレイアウトづくりを1からすることになり、まだまだ時間がかかりそう。
- ・他に高齢者施設内で子ども食堂を開催している団体があれば、どのように開催しているのか知りたい
- ・学区民生児童委員長より町内の方をご紹介頂き、町内会館の使用承諾が得られまもなく再開予定。
- ・家族単位で来る人は家族の方針もあり来なくなる家庭も出てきている。お弁当にすると来る人の層も変わっていると感じている。例えばお弁当なら来るけど、みんなで一緒に食べる食堂には来ない。お弁当にしたら今まで来なかった久しぶりの人がくる。
- ・コロナ対策に必要な消耗品、備品が更に必要となる見通しのため、購入資金の不足が心配
- ・コロナのため、運営スタッフ・ボランティアを減らして対応しているので、内容を検討せざるを得ない（メニュー他）

④子どもの居場所づくり「支援の輪」サポート事業について

- ・区社協に期待すること：①ボランティア育成、②ボランティア派遣
- ・横のつながりを通して、食材等の受け渡し等ができればありがたい。そこから活動にもつながる。
- ・ネットワークの中で課題が見えてくれば、それに沿って活動を検討したい。

⑤その他

- ・必要だと思う人が増えると嬉しい。団塊世代の大人が動いていくことが大切。
- ・「子ども食堂」というネーミングで来にくい人がいるのかも。
- ・地域でボランティアに頼るのではなく、担い手が増え子どもが安心できる場所が小さい子でも歩くことのできる距離に多くできること。
- ・今できることを細々とやっていく



子どもの居場所づくり
「支援の輪」サポート事業

北区 社会福祉協議会



075-441-1900

上京区 社会福祉協議会



075-432-9535

左京区 社会福祉協議会



075-723-5666

中京区 社会福祉協議会



075-822-1011

子どもの
居場所に関する
問い合わせ先
一覧



東山区 社会福祉協議会



075-551-4849

山科区 社会福祉協議会



075-593-1294

下京区 社会福祉協議会



075-361-1881

南区 社会福祉協議会



075-671-1589

右京区 社会福祉協議会

075-865-8567



右京区社会福祉協議会
京北事務所
075-852-0527

西京区 社会福祉協議会



075-394-5711

伏見区 社会福祉協議会

075-603-1287



伏見区社会福祉協議会
醍醐分室
075-575-2070



子ども食堂

応援します！
“子どもの居場所”



学びの場



〔事務局〕社会福祉法人 京都市社会福祉協議会（地域支援部）

☎600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83-1
ひと・まち交流館 京都

TEL : 075-354-8732 FAX : 075-354-8738 E-mail : commu@kcsw.jp

ホームページ : <https://kyoto-kodomo.jp>

当事業は、京都市の委託を受け、社会福祉法人京都市社会福祉協議会が運営しています。



「子どもの居場所」…
子どもたちにとって、そこに行けば、
自分を待っていてくれる人がいて、
誰かとつながっている、
「ここに来てよかった」と感じる場所。

活動中の方、子どもの居場所に行ってみたい方も、
応援したい方も、いつでも気軽にご相談ください。

行ってみたい人も

応援したい人も

ホームページを見てね！

kyoto-kodomo.jp

- ・子どもの居場所紹介
- ・助成金情報
- ・ボランティア募集情報

など、子どもの居場所に関する情報が満載！



子どもの居場所づくり「支援の輪」サポート事業とは

子どもの貧困や孤立を背景に、子どもの育ちをサポートする「子ども食堂」や「学びの場」が増えています。令和2年7月現在、京都市内では約90か所で取り組まれています。

平成30年度に実施した「子ども食堂実施団体へのアンケート調査」結果からは、「地域の子どもたちをもっと支援したい」という運営者の思いが、保護者や地域の方々から共感を得るなかで、子どもの居場所が広がっていることがわかりました。

本会は、地域の一人ひとりの思いと共感を大切に、区社会福祉協議会や関係機関・団体と連携して次の取り組みを進めます。

1. 子どもの居場所の拡充

- ・新規活動立ち上げ支援
- ・寄付金・寄贈品のコーディネート
- ・民間助成金制度の申請支援など



2. 子どもの居場所運営支援

- ・運営団体が安定した活動を継続できるよう必要な支援、相談受付
- ・必要に応じた運営団体、関係機関とのつながり構築支援
- ・情報発信と提供
- ・人材（ボランティア活動）のコーディネート



3. 子どもの居場所に関する啓発活動

- ・市民および市内を拠点とする企業・団体に対し、リーフレットやシンポジウムを通して取り組みを啓発します

4. 「気づきの窓口」サポート

- ・子どもの居場所運営の中で、困っている子どもや家庭に気づいたとき、「気づきの窓口」となるようサポートし、支援機関につなぎます



大

メディア掲載

京都新聞 (11.13 朝刊)
NHKニュース630 京いちにち (3.17 放送)



協賛企業

岩本印刷株式会社・公益財団法人京都オムロン地域基金・公益財団法人京都新聞福祉財団
一般財団法人中辻創智社・株式会社名高精工所・しんやさい京都・株式会社FUJII
西寺育成苑・社会福祉法人成望館・株式会社タカヨシ・餃子の蔵や・NPO法人京都ARU
株式会社中田製材所・公益財団法人ユースサービス協会・公益財団法人太陽生命厚生財団
YTマネージメント株式会社・NPO法人セカンドハーベスト京都・スター食堂株式会社【順不同】



Note:



NPO 法人
happiness

〒601-8451 京都市南区唐橋川久保町 1-20
Tel. 050-5218-9179
Mail. happiness.kyoto@gmail.com

<https://happiness-world.jp/>



HAPPINESS ANNUAL REPORT 2019

Designed and Printed by
IWAMOTO PRINTING Co., Ltd.



Take
Free

2019
年度

活動報告

NPO 法人
happiness

たくさんの方のありがとうを、
つたえたい。

ハピネス子ども食堂

カフェ営業

就労支援活動

高齢者居場所づくり

カフェでの子ども食堂活動

イベント出店

臨時講師(光華女子大)

その他の活動



次年度の目標

コロナに負けず、みんなで乗り越えられる
支え合い発揮します!

#01

ハピネス子ども食堂

子ども食堂22回、学習会21回を開催し、子ども約1130人、大人512人に参加していただきました。

夏休みには夏祭りを開催し、ハロウィンではハピネスにずっと参加している中学生達が飾り付けやゲームを考えて準備するなど、運営のお手伝いをしてくれたりと、子ども達の成長を感じることができました。

#02

カフェ営業

テイクアウトや定期配達など、
新規開拓がんばります☆

次年度の目標

今年度は雇用人数が1名増え、営業日数を4日から5日に増やすことができました。

#03

就労支援活動

受け入れ人数を増やし、
ステップアップの目標を明確にするゾ!

次年度の目標

南区社協との連携により、チャレンジ就労の受け入れもはじまり、2名の参加がありました。(1名は現在も継続中)体験時間や日数も少しずつ増え、本人の変化も感じられています。



#05

カフェでの子ども食堂活動

きめ細やかなサポートを目指します。

46回、68名の参加でした。新型コロナウイルスの影響により、休校措置が発令された際には、子ども弁当の提供を行いました。それについてNHKから取材を受けました。

#04

高齢者居場所づくり

シルバー写真館に続き、
新たなイベント企画します!

次年度の目標

20回開催(クラフトバンド教室・パソコン教室・スマホ教室・エンディングノート作成講座・シルバー写真館による撮影会)

今年度目標にしていた高齢者に向けたイベントの企画を吉祥院すこやかクラブの皆様と活動することができました。定期的な昼食会のお弁当の提供、エンディングノート作成講座、クラフトバンド教室、IT教室、シルバー写真館の開催など、年間20回の実施ができました。また、ハピネスの想いに共感もしていただき、互いに良い関係を構築することができました。

#06

イベント出店

呼ばれればどこへでも行きます。
イベント大好きメンバー結成!

次年度の目標

西寺育成苑祭・吉祥院夏祭・市緑堂2019・きょうと地域力アップ応援フェアに出店。



Other

里親サロン

京都市里親会と児相が連携し、里親制度について発信する定期的な「里親サロン」の開催を、ハピネスカフェにて行い、洛南イオンでのイベント開催につながるなど、発展することができました。



理事長からのごあいさつ 宇野 明香

UNO
SAYAKA

この度は手にとつていただき、ありがとうございます。
振り返ってみると年間を通じ、本当にたくさんの人たちとの繋がりを実感することができました。
私たちの活動を支える、支援者の方々、ボランティアさん、そして、集まってくる参加者の人たち。
誰が欠けてもこの地域づくりは成り立ちません。
2019年度は講演依頼をいただいたり、新聞やテレビ等メディアに取り上げてもうらやなど、目の前の誰かのためにコツコツとやってきたことを評価していただく機会が多かったように思います。世間における子ども支援への注目が高くなつてきている中、子ども食堂ブームだけで終わることがないよう、まだまだ光が届いていない子どもがいることを今後も発信しつづけていきます。皆の意識が変わり「虐待」悪という見方だけでなく、その家庭の背景にそつと寄り添える人たちを増やしていきたいです。
年度末にはコロナによる大混乱となり、2020年度は誰もが未知の社会が始まります。ある意味では世界中の誰もが同じスタートにたつているという前向きな姿勢で2020年度も活動を展開していきたいと思っております。
ぜひ、これをご覧の貴方にも何か一緒に実現できることがあると嬉しいですし、ワクワクします。一度、ハピネスに遊びにきてください。心よりお待ちしております。

決算報告

【事業別損益の状況】

(単位:円)

科目	子ども支援活動 及び教育事業	イベント及び ワークショップ事業	就労体験・職業訓練 による就労支援事業	管理部門
I. 経常収益				
1. 会費				228,000
2. 寄付金				1,479,447
3. 助成金等	1,077,000	180,000	450,000	240,000
4. 事業収益等	92,700	41,200	2,646,421	
5. その他収益				32,009
経常収益計	1,169,700	221,200	3,096,421	1,979,456
II. 経常費用				
(1) 人件費				
給与			1,194,625	
法定福利費			1,601	
(2) その他経費				
仕入			941,986	
食材費	337,418			
施設使用料	137,460			
消耗品費	121,506	31,000	254,250	6,086
広告宣伝費	35,700	87,690	52,080	129,850
地代家賃	74,400		669,600	
水道光熱費	17,421		157,114	
通信費			78,140	51,141
交通費	292,720	600		5,600
新聞図書費			65,600	
保険代	7,390		30,820	
支払手数料	419,000	90,000	8,736	48,646
租税公課				3,890
減価償却費	13,422		120,802	
雑費			3,500	44,600
その他経費計	1,456,440	209,290	2,382,628	289,813
経常費用計	1,456,440	209,290	3,578,854	289,813
法人税等			50,000	
当期経常増減額	△ 286,740	11,910	△ 532,433	1,689,643

【重要な会計方針】

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

- (1) 固定資産の減価償却の方法
建物の減価償却は、定額法によっています。工具器具備品の減価償却は、定率法によっています。
- (2) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

ハピネス交流ひろば in happines cafe

2020 December



12/6(日)

売り切れ
次第終了

1day パン屋さん



11:00 - 17:00

12/9(水)

参加費
300円

クラフトバンド教室



定員10名
10:00 - 12:00

12/17(木)

参加費
500円

10歳若返る
ハンドエステ講座



定員10名
10:00 - 12:00 (1ドリンク&お土産付き)

12/19(土)

参加費
500円

エンディングノート
作成講座



定員10名
14:00 - 16:00 (資料付き)

12/21(月)

参加費
300円

パソコン教室
スマホ・タブレット教室



【パソコン】定員5名 【スマホ・タブレット】定員10名
13:00 - 14:00 15:00 - 16:00



年末年始の休み(12月30日~1月11日)

〒601-8451 京都市南区唐橋川久保町1-20
7:30-15:00(月・火・木・金) / 8:00-15:00(土)
050-5218-9179
happines.cafe.1
happines.kyoto@gmail.com

参加費はいずれも「シニアクラブ会員価格」です。

ハピネスカフェ 京都



子どもの居場所づくりってなんだろう

今回の取材を通して思ったことは、「子ども食堂」といっても様々なコミュニティの形があるということです。

「子どもと専門性のある人が出会える機会があってもいいのでは?」「居場所づくりを支える活動とはどういうものなのか?」など疑問が浮かぶ中、「理想の居場所」について、子育て相談や子どもの居場所づくりを始める団体の支援に取り組んでいる村井琢哉さんにお話を伺いました。

やりたいことって、何? が大切

「やりたいことをやれる場に、同じ考えの人が集まる」という形ができると、活動の輪がどんどん広がると思います。

例えば、勉強を教えるのが得意な人だったり、料理が得意な人だったり、やりたいことは何でもいいんですけど、同じ目的を持つ人を募る。そこに人が集まり、楽しければまた仲間に声をかける。そこに来る子どもたちも楽しければまた、友だちを連れてくる。特徴

や関心事のバリエーション豊かなコミュニティが増えて、〇〇が得意なおっちゃん、おばちゃんのマわりにそれを求めていた子どもが集う。そんな出会いができる場所が増えていくのが理想かなあと感じます。

これからのコミュニティづくりとは

小さな規模から始めて試行錯誤しながら、周りを巻き込んでいく。うまくいかないときは、今までフォーカスしていたところからちょっと軌道修正して、がんばり方を変えてみるとしたかったことが見えてくることも。

もちろん「手伝って」というのもいいんだけど、「こんなことやってるし、一緒にやろうよ。一緒に楽しもうよ!」という形が広がればいいのでは。

もっと進化してもいい

「大人の考える居場所と子どもが心地よくいられる居場所、それが一致しているのか」というところから活動を始めしてみるのも本来のあり方なのかもしれません。

子ども食堂が、人が集まるひとつの



NPO 法人山科醍醐こどものひろば
理事長 村井 琢哉さん
京都市子どもの居場所づくりアドバイザー
事業を受託
(平成29年8月~令和2年3月)

きっかけだったかもしれないけれど、これからはもっと形を変えて、ほんとにみんながやりたかったことにシフトチェンジして、いろんなコミュニティができていいと思います。

新たなつながりが今までと違う形に進化していくのも、ありなんじゃないでしょうか。

(1月27日 うつのみや ゆきこ)



Vol. 19

「子ども食堂」ってなんだろう?
地域の人たちの手で作る
“大人と子どもが出会える場”
区内にある4カ所の子ども食堂を
取材してみました。



またおいで!

編集後記

●「留守番が多い、あの子に知らせたい!」そんなあったかい『居場所』。必要などころにどうか届きますように。(あいかわ あつこ)

●取材に協力して下さったみなさま、ありがとうございました。子どもに対するそれぞれの思いが熱かったです。(うつのみや ゆきこ)

●子どもも大人も安心できる居場所「子ども食堂」。子育て中の身としては心強い味方です。(こいけみか)

●子ども食堂の取材を通して、地域の子どもたちを大切に思い、一緒に時間を過ごして成長を見守りたいという、地域の方々の気持ちが静かに、でも深く熱く伝わりました。その皆さんの思いが表現できたでしょうか。(釣 明子)



中京「マチビト来たる。」とは?

中京区に暮らす人、通う人、このまちを好きな人が「マチビトライター」となり、中京区のまちづくりに関わる「マチビト」を中京区役所とともに紹介するフリーペーパーです。

マチビト来たる。 検索

発行 中京区基本計画推進会議
制作 マチビト工房
協力 谷口知弘 中村伸之 深川光耀 京都市中京区社会福祉協議会
問合せ 京都市中京区役所地域力推進室 総務・防災担当
(Tel. 075-812-2421 Fax. 075-812-0408)

令和2年3月発行

インタビュー

- 1 子どもの城「セカンドテーブル」
- 2 ハイ・どうぞ子ども食堂
- 3 韓国料理 内房こども食堂
- 4 あかしや輪い和い雀クラブ



子どもの城「セカンドテーブル」

1

地域に恩返しを！
から始まった
あたたかい居場所
「セカンドテーブル」

会員制の「子ども食堂」として、子どもの成長を継続的に見守り続けている子どもの城「セカンドテーブル」。三条通りに面したガラス張りのテラスから、ほっこりあたたかい雰囲気の中に元気いっぱいの子どもの笑顔が溢れています。

「セカンドテーブル」は、留守番しがちな子どもたちが楽しくごはんを食べたり、英語などの勉強をしながら安心して過ごせる居場所となっています。また、食事を通してマナーを学んだり、スタッフが育てた無農薬野菜を用いて野菜について学べるように働きかけています。

始めたきっかけは？

社会福祉法人白百合会は京都市内で約35年継続している障害者福祉施設です。平成23年に中京区に移転してきて、社会福祉事業の中で培った支援技術を生かして、なにか地域に恩返しをしたいという想いから、未来を担う子どもたちの成長を手助けできる居場所づくりを始めました。

日ごろ忙しいお母さん、お父さんを応援したい。子どもにとっても、親にとっても安心

社会福祉法人白百合会 施設長 楠 りつこさん

できる居場所になってほしいと考えています。また、子育てを卒業した方々がボランティアとして知識と経験を十分に発揮できる場所となることで、多世代が交流し地域の活性化につながると考えています。

続けていく中での課題は？

現在は、社会福祉法人白百合会の職員、職員の知人、子育てを卒業された地域の方々、大学生スタッフの協力により運営しています。食事の準備や英語をはじめ勉強を教える学習支援など、スタッフが様々な能力を発揮しながら助け合っています。そのため、継続していくにはやっぱりマンパワーの確保が課題となっています。

今後の展望は？

子どもたちが夢と希望と誇りをもって成長できる居場所として続けていきたいです。そのためには、いろんな世代の人が知恵と力を持ち寄り、みんなが成長できる地域の拠点になっていけたら良いなと思っています。

(1月20日 こいけみか)

子ども食堂を通して、
地域みんな
助け合いたい

3



韓国料理 内房 子どもの食堂

京都市中京区三条新町西入ル釜釜町 37
三越釜釜ビル1階
Tel. 075-223-1928

子どもの食堂 (18:00 ~ 20:00)

参加費：幼児無料、小学生 300円、
中学生以上 500円、
70歳以上 400円

開催予定日：第3日曜日

朝食 (7:00 ~ 9:00)

参加費：幼児・小学生 100円、
中学生以上 300円

開催予定日：6月22日、9月28日

※どなたでも参加できます。

韓国料理 内房 子どもの食堂

カン ヒョンジョン
姜 賢貞さん・篠原 真理子さん

毎月第3日曜の夜、『内房子ども食堂』は、友だち同士で来た子どもや親子連れ、地域の人などで賑わう。こだわりメニューの、韓国料理を楽しみに訪れる人も多く、店内は明るい笑顔と笑い声で溢れます。

活動のきっかけと、恩返しのバトンが繋がった子ども食堂

店主の姜さんは3年前、子どもの発達障害に悩むお母さんたちと出会いました。「食事しながらお喋りできる場があれば、きっと笑顔になれる」と思い立ち、定休日にお店を開け、同じ悩みを抱えるお母さんを迎えます。そこには、「外国人の自分を快く受け入れてくれたこの地に、いつか恩返しをしたい」という強い願いがありました。

活動を続けるなかで、参加者の一人であった篠原さんが、「自分も何かでお返しを」と手を挙げたことで、新しい流れが生まれます。

互いに深く共感した二人の出会いがきっかけになり、多くのボランティアスタッフの協力の下、ついに子ども食堂が誕生。誰もが集える「居場所」として1年前から運営されています。

内房さんが描く、理想の「居場所」は？

まずは、気軽に楽しく集えることですね。食事だけでなく、子どもたちが笑顔になれるような、お花の体験、アートや音楽セラピーなどの計画もしています。みんなの力で、みんなが求める『居場所』を作っていくのが目標なので、「こんなことやってみよう」という想いがある大人も大歓迎。

そして、ここに来ると、子どもたちがいろんな大人と出会い、繋がりを作れる、そんな場にもしたい。悩んだり、迷ったりした時に助けになれる。“あそこに行ってるんやったら安心”と、思ってもらえるのが理想ですね。

今後はもっと、活動を知ってもらい、独り寂しく過ごしているような子どもの耳に情報を届けたいです。あたたかい食事を用意して、遊びに来てくれるのを待っています！

内房さんでは、新たに「朝食」や、“工作から学ぶ算数”などの「学習支援」もスタート。子ども食堂を通した“地域みんなが助け合える活動”は、これからも続いていきます。

(1月12日 あいかわあつこ)

ハイ・どうぞ 子どもの食堂

NPO 法人ふれあいほうむどうぞ 代表 小林 敬子さん

「ハイ・どうぞ 子どもの食堂」は『ふれあいほうむどうぞ』の中の活動の一環。

最初は障害者支援の作業場としてスタートし、配食やランチなどを提供していましたが、2017年に最後の卒業生を送り出したのを機に一旦区切りをつけました。そして、土曜日だけオープンする土曜クラブとして再開。第4土曜日を子ども食堂にあて、活動を開始しました。

売り切れごめん

「めっちゃ、おいしい」の笑顔がみたい!!

かわいいアップリケの看板があたたかくお出迎え。店内に絵本やおもちゃがあってアットホームな雰囲気が漂います。利用者はファミリーや母子。ときにはパパと子どもで。その間ママがちょっと家で息抜きしたりと、家族のあり方に合わせて利用されているようです。100円玉を握って小学生がひとりりて来ることも。そんな時は小林さんが子どもの話し相手になります。

この日のメニューはクリームシチュー。にぎやかに入ってきたのは近くのアフタースクールの先生と子どもたち。その後、次から次にお客さんが出たり入ったり。早いときは12時半くらいで完売に。スタッフの働きがなくなってしまうこともあるそう。調理師を含

むスタッフ7人で、栄養面だけでなく匂を取り入れた献立で毎月みんなの舌と心を楽しませてくれます。

新たにスタートされたのはなぜですか？

ランチを楽しみに来てくれていた人たち、ここで働いていたスタッフたちも含め、やめてしまったらみんなの居場所としてあったものがなくなってしまう。せっかく厨房もあるし調理ができるスタッフもいるし、「それならまた作ったらええやん！」ということで、それぞれの能力が発揮できる場、土曜クラブとしてリニューアルオープンさせました。

今後の目標やビジョンはありますか？

食を中心に子どもたちに息抜きを提供すること。最近では子どもたちも学校と家庭の往復に加えて塾や習い事などに追われ、ふっと気が抜ける瞬間がないんじゃないかと。スタッフに元教師が多く、教えることは好きだし得意。それを生かして勉強を教えたり、宿題をみたり、絵本を読んだり。親は勉強や成績が気になるかもしれないけど、勉強以前に子どもの精神的な面やストレスなど、心のケアができる場を作りたいとも思っています。

(1月21日 うつのみや ゆきこ)

あかしゃ輪い和い雀クラブ

NPO 法人あかしゃふれあいネットワーク 専務理事 宮崎 茂さん

京都府の委託事業として、平成25年度から「きょうとこどもの城づくり事業(こどもの居場所づくり事業)」、平成29年度からは同事業の「地域支援拠点型」を行っています。当初は夏休みだけでしたが、今年度は年間100日(週2日)行っており、さらに「宿泊体験型」も行っています。活動の基本は、生活支援、学習支援、交流事業、親の相談の4本柱です。

1日の流れは？

17時に学校や児童館にお迎えに行き、センター隣の銭湯でみんな一緒に入浴。これが当クラブの特徴です。その後、学習、食事、レクリエーション等を行います。

学習時間は約40分、将来教師などを目標としている大谷大学の学生ボランティアの方々が、創意工夫した手法でお手伝いいただいています。

生活面では地元ボランティアの方に応援していただいています。親御さんは19時45分頃迎えに来られますが、来られない場

合は学生ボランティアが家まで送って行きます。

大切にしていることは？

ある日の夕食でおかずハンバーグを用意したとき、レトルトハンバーグではない、手作りの大きさに子どもたちはびっくり。偏食など、日頃の家庭での食生活の様子も見えてきます。そこで、家では食べられないものを作ってみたい、野菜を育てるところから取り組むなど、工夫しています。

また、地域の方々と一緒に夏まつり、年末の餅つき大会を行うほか、子どもたちの意見を取り入れ様々なレクリエーションを行うなど、家庭的な雰囲気づくりをめざしています。親御さんとの懇談・相談では、「子どもと話す機会が少なく話題もあまりなかったけど、ここへ通うようになってからは子どもが楽しそうに話してくれて親子の会話も増えた」という感想をいただいたりします。

(1月17日 釣 明子)

「あかしゃ(朱四舎)」の名の由来は？ 朱雀第四小学校に記念植樹された木で京都市教育委員会の学校名木百選にも選ばれています。この地域のシンボルをNPO法人の名前に使わせていただくことによって、地域のために多くの人の協力をいただきながら活動していきたいと考えています。



4

あかしゃは地域のシンボル！ 私たちみんなで守り育てる！



あかしゃ輪い和い雀クラブ

京都市中京区西ノ京新町 12-34
中京いきいき市民活動センター内
Tel. 075-802-1301
(事前登録制)



子どもの城「セカンドテーブル」

京都市中京区三条通油小路東入ル塩屋町 36 番地
リ・プラン京都中京
Tel. 075-744-0815

開催日：月曜日・水曜日 17:30~19:30
(事前登録制)



二条駅の西側
子どもも大人も
WELCOME!!

2



ハイ・どうぞ子どもの食堂

京都市中京区西ノ京小倉町 22-10
Tel. 075-821-7060

開催日：毎月第4土曜日 11:00~13:30
参加費：子ども 100円、大人 300円

※どなたでも参加できます。

ハイ・どうぞ 土曜クラブ

— 楽しく・つながる場として —

<p>第1 土曜</p>	<p>絵本のひろば “どうぞのいす” 10:30～14:00 15:00～17:00 ほっこりサロン・どうぞ</p>	<p>読み聞かせをしたり、自由に絵本が読めます。絵本の相談もあります。</p> 
<p>第2 土曜</p>	<p>ほっこりカフェどうぞ 11:30～14:00 ほっこりランチ(700円) 15:00～17:00 手作り制作</p>	<p>高齢者を主にほっこり、ゆっくりの場 参加費500円 (飲み物あり、材料費込み)</p>
<p>第3 土曜</p>	<p>ほっこりカフェどうぞ 15:00～17:00 “アコーディオン演奏”で歌声サロン</p> 	<p>三味線、ギター演奏もある時も...! 参加費500円(飲み物あり)</p>
<p>第4 土曜</p>	<p>子ども食堂 10:30～11:00 ふれあいタイム 11:00～13:30 昼食 15:00～17:00 ほっこりサロン・どうぞ</p>	<p>昼食代 おとな300円 こども100円 年齢にかかわらず おこし下さい。</p> 

ハイ・どうぞ ふしみや食堂

日曜～金曜 11:30～18:00

定食 800円など 子どもランチ 350円から
弁当 600円・800円 ケーキセットあります

※ 配達はできません。取りに来て下さい。
その他相談に応じます。 075-821-7060



ボランティアしてみたい!と思ったら

対象

・京都市内に在住または、在学・在勤されている大学生年代～30歳までの青少年
・活動主旨に賛同し、ルールを守って活動してくれる方

説明会スケジュール

毎月第3日曜日 14:00から。(要事前申し込み) 予定が合わない場合は、個別対応も可能です。お気軽にお問い合わせください!

拠点と時間

市内18カ所の拠点で、曜日や場所、運営スタイルなど希望に合わせてマッチングします! 詳しい場所は、説明時にご案内します。

登録までの流れ



会場MAP



◎中京・右京・深草はボランティアを一般公募していません。

北	毎週木曜日	17:00~20:30
上京	毎週月曜日	17:30~20:30
左京	毎週金曜日	17:30~21:00
中京◎	毎週金曜日	17:30~21:00
東山	毎週金曜日	17:30~21:00
山科	毎週金曜日	17:00~20:45
下京	毎週月曜日	17:00~20:30
南	毎週木曜日	17:00~20:30
右京◎	毎週木曜日	17:50~20:30
右京南	毎週木曜日	17:30~21:00
西京	毎週金曜日	17:45~20:00
洛西	毎週金曜日	18:00~21:00
伏見	毎週木曜日	17:50~20:30
深草◎	毎週木曜日	17:30~20:45
向島	毎週土曜日	15:00~18:00
小栗栖	毎週火曜日	17:00~20:30
醍醐東	毎週木曜日	17:00~20:30
醍醐西	毎週月曜日	17:00~20:30

※時間に変更となることがあります。

お問い合わせ 公益財団法人 京都市ユースサービス協会 (10:00~21:00 日祝18:00まで 水曜・年末年始休館)

住所 〒604-8147 京都市中京区東洞院六角下御射山町 262 中央青少年活動センター内

TEL 075-213-3681 MAIL office@ys-kyoto.org WEB http://ys-kyoto.org/

学習支援担当宛まで電話・メール・来館いずれかで、「名前・年齢・所属(学生の方など)・ご連絡先」と「希望活動地域or希望活動曜日」をご連絡ください。

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ!



協会HP 学習支援 ページはコチラ



※本学習支援事業は、京都市ユースサービス協会が、京都市から受託しています。

学習支援 ボランティア募集

週に1度、誰かの“今”に寄り添う



ボランティアは、より“近い”存在だからこそ、気軽に相談や悩みを打ち明けてもらえる

学び合える仲間がいる

こんなに一人の子に真剣に関わることは、この先たぶん、ない

公益財団法人 京都市ユースサービス協会

教えるよりも、学び合う

学習支援事業とは

家庭で学習環境が整いにくい中学生を主な対象として、宿題や定期テスト・受験に向けた学習サポートをする事業です。「勉強の仕方がわからない」「やる気がでない」「学校の授業についていけない」など、困り感は様々です。京都市ユースサービス協会では、学習支援事業を京都市から受託し、関係機関と連携しながら運営しています。



京都市ユースサービス協会とは

当協会は子どもから責任ある大人へと成長する若者を支援する、専門スタッフの「ユースワーカー」が、市内全域で多様な活動を展開しています。

ユースワーカーとは

「若者の味方」として、若者が本来持っている力を発揮できるような場づくりや、やりたいことを実現するお手伝いをしています。

運営で大切にしていること

学習会が安心して過ごせる場であることを大切にしています。

信頼関係を築き、言いたいことを言えたり、自身の意見が尊重されたり、自分を大切に、気にかけてくれる人がいると、学習者に感じてもらえるような場づくりを目指しています。

学習会に関わるいろんな人の声

ボランティア



「一人ひとりの子どもの未来と彼らがつくる社会に関わることができるのが魅力です」

「自分自身の苦手なことや得意なことが見えるようになった」

「いままで社会のルールにのって学校に通ってきたけれど、学校の勉強をこなすだけが学びではない。そんな風に考えたときに、学習会のような場での多様な学びのあり方に触れて、自分も体現していきたいと思いました」

「塾みたいに厳しいところではないか不安だったけど優しく出迎えてくれて 通い続けられている」

「第二の実家みたいなところ」

「ボランティアの話を聞いて、“こんな夢いいな” “こんな未来もいいな” と思えた」



学習者



コーディネーター・担当ユースワーカー



「学校の宿題や受験勉強などは中学生にとって“日常”の一部。だから学習会は“日常”の支援だと思う」

「ボランティアにとってのチャレンジの場でもある。悩みも失敗も受け止めます」



得られる経験やスキル

思春期との関わり

学習者の話を聞き、目標達成や悩み解決に向けて、一人ひとりに寄り添って共に悩む経験ができます。また、信頼関係を築き、それを維持する経験から対人関係スキルを体感しながら学ぶことができます。



相手に伝わるように伝える力

勉強を教える時、仲間同士で共有する時、“自分の言葉”で伝える場面はたくさんあります。中には説明しづらいことも。相手に伝わるように、工夫する経験を積むことができます。

仲間ができる

運営を支えるのは仲間同士の協力です。学習者のことやイベント実施のことなど議論して、成し遂げる機会がたくさんあるので、仲間ができます。

様々な背景を持つ人との出会い

この場に集う人は、学習者もボランティアもスタッフも、応援してくれる地域の人も、様々な背景や価値観を持っています。多様な人々と出会い、言葉を交わし、つながり、いろんな価値観に出会うことができます。

ボランティア活動をする上でのお願い

事業の特性上、学習者との信頼関係を大切にしています。また、日常の運営は仲間全員で協力して行います。安心して過ごせる場づくりのため、右記のことをお願いしています。

- 継続的に関われる
- グループでの活動を大切にできる
- ルールを守れる

こんな人、ぜひ一緒に活動しましょう！

- 子どもが好き
- 学習者を主役として、学習をサポートしたり、楽しいことを考えたりしてみたい
- 学習者のことを真剣に考え、寄り添える
- 自分自身の学びとして活動したい
- 何かをやり続けてみたい

+αこんな人も大活躍！

- 教育や福祉を勉強している、関係する仕事を目指している
- 理数系の勉強が得意

ボランティアの待遇

- 交通費支給：1,000円/回 超える場合は市内分に限り実費支給
- ボランティア保険加入：活動中や行き帰りの怪我なども安心（協会が負担します）
- 活動に役立つ研修実施：過去テーマ「発達凸凹のある子と関わる時のヒント」「知っておきたいセクシャルマイノリティのこと」「京都市の受験制度について」etc
- 活動証明書発行：ボランティア活動に取り組んだ証明書を発行することができます。